

豊島区生涯学習推進ビジョン

(原案)

令和2年(2020)2月

豊島区

目次

はじめに

生涯学習とは	1
--------	---

第1章 計画の改定にあたって

1-1 計画改定の背景	2
(1) 国の状況	
(2) 都の状況	
(3) 豊島区の状況	
1-2 前期計画の振り返りと今後の方向性	4
1-3 ビジョンの位置づけ	5
1-4 ビジョンの期間	6

第2章 生涯学習の推進に向けて

2-1 生涯学習推進の目標	7
2-2 施策の体系図	9

第3章 としま学びスタイルの実現に向けて

3-1 としま学びスタイルの実現に向けて	10
3-2 評価体制	12

はじめに

生涯学習とは

生涯の様々な時期にあらゆる機会や場所において、年齢や国籍の違い、障害の有無にかかわらず、学習する人の自発性を尊重し、個人や集団で行う学習活動を「生涯学習」といいます。

生涯学習には、余暇や趣味のような楽しみのために学ぶだけではなく、楽しく学んだことを応用して社会や地域のために役立てることも含まれています。

現在のように変化が激しい時代においては、学校教育において基本的な知識や技能を身につけたうえで、必要に応じて自ら学び、その知識を応用し発展させていくことが求められています。様々な情報から自ら考え選択したり、自ら行動したり、個人の学びも深めながら、人と協力しあい学びあいのネットワークを広げていくことも重要です。そして、学びあいの中から、学習課題を共有し、自分の生き方や自分たちの住むまちをより良いものに変えていける力が生み出されるのです。

また、生涯学習振興行政とは、区民の生涯にわたる学習活動を援助・振興し、学習の成果を活用・促進していくために必要な条件を整備していくことです。学習活動にかかわる行政は、学習・スポーツ課だけではなく、教育や文化、福祉、労働など多様な分野で実施されています。これらについては、それぞれの所管において適切に進められていく必要があり、行政機関間にも必要なネットワークを広げ、学んだ成果を発信していくことが求められています。

第1章 計画の改定にあたって

豊島区生涯学習推進ビジョン(以下「ビジョン」という)は、生涯学習を取り巻くさまざまな状況や社会情勢に対応し、区全体で生涯学習を推進するために、区の生涯学習に関する考え方を体系化したものです。

平成28年12月に出された第五期豊島区生涯学習推進協議会の『「つどう、つながる、つなげる、つくりだす」豊島区生涯学習センター機能の実現に向けての意見書』を受けて、平成 22 年「豊島区生涯学習推進計画 2010-2019」を改定します。

1-1 計画改定の背景

(1) 国の状況

文部科学省は、平成 30 年6月に「第3期教育振興基本計画」を策定しました。その中で教育をめぐる現状と取り組むべき課題として、人口減少・少子高齢化や急速な技術革新、グローバル化の進展などがあげられています。第2期計画の「自立」「協働」「創造」の方向性を継承し、個人においては「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材を育成」が重要であるとされています。

その上で、「今後の教育政策に関する基本的な方針」として定められた5つのうち、特に、「生涯学び、活躍できる環境を整える」方針では、次のことが目標とされています。

○人生 100 年時代を見据え、全ての人が生涯を通じて、自らの人生を設計し活躍することができるよう、必要な知識・技能の習得、人的・知的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習を推進し、「学び」と「活動」の循環を形成する。

○少子高齢化、人口減少などの環境変化に対応し、人々が孤立することなく生きがいを持って社会に参加し、地域社会の活力の維持・向上を図るため、人々の暮らしの向上と社会の持続的発展に向けた学びを推進する。

○障害者権利条約の批准や障害者差別解消法の施行等も踏まえ、障害者が、学校卒業後も含めたその一生涯を通じて、自らの可能性を追求しつつ、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じた教育やスポーツ、文化等の様々な学習機会の整備に関する関係施策を横断的かつ総合的に推進する。

このように、「学び」と「活動」を好循環させ、学習の成果が広く社会的に活用される生涯学習社会の実現が求められています。

(2) 都の状況

東京都生涯学習審議会では、平成 31 年 2 月に、「地域と学校の協働」を推進する方策について」建議し、その中で「地域教育」の必要性について次のように述べています。

○持続可能な社会づくりを実現するためには、人々がまず身近な生活の課題を ESD の視点から考え、学び合い、その解決に向けた活動を地域で展開することが大切である。

○これらのことを踏まえ、社会教育事業の目指すべき姿を示したのが図2である。

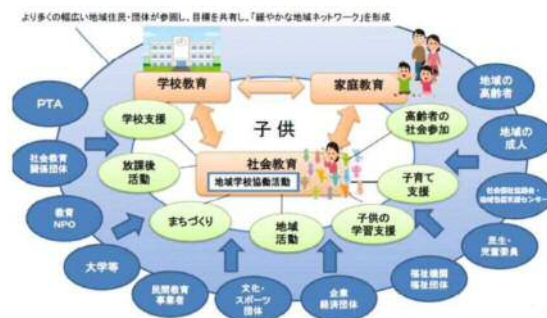


図2 これからの社会教育事業の目指すべき姿

(3)豊島区の状況

人口減少社会にあたって、持続発展を続けるまち

豊島区は、平成 26 年 5 月に日本創成会議から 23 区で唯一、消滅可能性都市の指摘を受けました。その背景にある人口減少問題を日本全体の問題として捉え、女性にやさしいまちづくり、高齢化の対応、地方との共生、日本の推進力を4つの柱とし、「国際アー・トカルチャー都市」として、安全・安心の都市、にぎわいあふれるまちの姿として、持続発展都市を目指してきました。この取組みにより、本区の人口は平成 30 年 7 月に 29 万人を突破し、0～14 歳の年少人口や 65 歳以上の高齢人口を含めて、多世代の年代の人口の増加傾向が続いています。

女性にやさしいまちづくりの取り組みでは、「としま F1 会議」での学びから提案事業を実施し、活動を通して自分たちでまちづくりをしています。

豊かな学習資源のあるまち

人びとが生涯にわたり自由に学び続けられる環境を整備し、さらに学習成果を地域に還元し、地域コミュニティの活性化へとつなげていくために、さまざまな計画のもとで取り組みを進めてきました。

本区は総人口に占める 0 歳～14 歳の年少者の割合が 23 区中 2 番目に低く、75歳以上の高齢者人口に占める一人暮らしの割合は 37.0%と 23 区で1番高くなっており、少子高齢化が進んでいます。区内の小学校区にある「区民ひろば」24 か所は、子育て支援や高齢者の健康活動支援、学習や交流の場として整備されています。

区内には、本区と協定を締結し連携している大学が 7 校あり、大学の地域貢献の取り組みにより、本区と協働して地域づくりにつなげていく仕組みが「としまコミュニティ大学」で活用されています。本区の主な学習施設としては、地域文化創造館 5 館、中央図書館、地域図書館 6 館、みらい館大明などがあり、区民の学びあいの場や地域づくりを進める学習が行われています。

閉校施設を活用した「みらい館大明」では、地域のNPOが自主管理・運営で生涯学習の場を提供しています。「豊島区若者支援事業」では、サードプレイスとなる「ブックカフェ」を開設し、開かれた学びの場を展開しています。

多文化共生のまち

外国人は、総人口に対して 10.1%(平成 30 年 1 月 1 日)と 23 区で 2 番目に高く、20歳を迎える人口の割合では39. 6%となっています。110 か国以上の多国籍の人が住んでおり、「日本語教室」が区と共催で区民の自主サークルや大学で運営されています。また、区内の児童生徒向けの日本語教育機関、外国人住民組織などの連携強化を深めています。

また、2019(平成31)年3月には、「豊島区多文化共生推進基本方針」を策定し、外国人を含めた多様な区民が互いに尊重し、安心して暮らせる多文化共生の実現に向けて取り組み始めました。

障害のある方の生涯学習として、区では重度心身障害者の方を対象とした「土曜余暇教室」や、中軽度知的障害のある方を対象とした「豊島区日曜教室(つばさ CLUB)」を開催し、余暇活動への参加を促進しています。さらに、障害の有無にかかわらず、学習活動に参加できるような取り組みも行っています。

国際文化都市への挑戦

区は、2015(平成27)6月に「国際アート・カルチャー都市構想」を策定し、安全・安心な都市空間の中で、誰もが多様な文化を享受し合い、世界中の人々を魅了するにぎわいあふれる都市の実現に向けて、多様な文化資源を生かしたまちづくりを展開しています。

2019(平成31・令和元)年2月～11月には、国家的プロジェクトである「東アジア文化都市2019豊島」を開催し、中国代表の西安市、韓国代表の仁川広域市と日本代表の豊島区による文化交流事業に取り組んできました。

また、東アジア文化都市2019豊島まちづくり記念事業として、23のプロジェクトが推進され、豊島区立芸術文化

劇場や新区民センターなどが完成し、区民にとって身近に芸術文化に親しむ機会も増えています。

本区が目指すまちの姿「国際アート・カルチャー都市」の取り組みでは、区民や7大学の学生が国際アート・カルチャー特命大使として、自ら事業を企画・運営して、豊島区の文化資源の魅力を国内外に発信しています。東アジア文化都市 2019 豊島、2020 年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの展開、更にその先のレガシー継承へと、活動は広がっています。

このような状況を受け、すべての区民がいきいきと暮らす未来、魅力的で持続可能なまちづくりを共に考える未来を、生涯学習をととして実現することを目指します。

1-2 前期計画の振り返りと今後の方向性

国の生涯学習をとりまく状況の変化に伴う新たな課題や区のこれまでの取り組みの成果を踏まえ、平成 22 年 10 月に策定した前期計画「豊島区生涯学習推進計画 2010-2019」では、『区民が主体の「学びの循環(わ)」をつくる』という目標と、「つどう」「つながる」「つなげる」「つくりだす」の4つの基本理念をあげていました。基本理念ごとに、主な成果とこれからも継続していく課題と方向性について整理します。

(1)つどう～生涯学習の環境整備

【主な成果】

- ・活動拠点の整備については、既存の施設だけではなく区民ひろばが全小学校区に配置され、地域の学習活動の場が広がりました。その結果、講座数、参加者数も大幅に増え、平成 30 年度に区がかかわった講座数は、4 万 6697 回、延べ 77 万 948 人が参加しました。
- ・多様な学習機会の提供については、人権や福祉、保健、子育て、環境、防災、文化など幅広い分野において多種多様な区民向けの事業が展開されています。

【課題と方向性】

学びたい区民を学びの場につなげる、学びの成果を地域課題解決につなげる学習機会の提供については、社会状況の変化に対応して取り組んでいくことが重要です。誰でも自分のスタイルで、自由で多様な学習ができるよう、生涯学習環境や活動拠点、学習機会を整備します。

(2)つながる～情報提供・コーディネート機能の強化

【主な成果】

- ・月2回のメールマガジンの発行や、ホームページによる生涯学習情報の発信、郷土資料館の収蔵資料をデータベース化し、情報提供を行っています。
- ・生涯学習の相談機能については、学習・スポーツ課の窓口だけではなく、生涯学習関連施設においても職員が区民の学習相談に応じています。外国籍等区民対象の日本語を学ぶ相談も受けています。

【課題と方向性】

外国籍等区民には、今後も生活者の視点にたった多文化共生支援や相互理解につなげていく支援を引き続

き力を入れていく必要があります。

学びを通した新たなつながりを生み出すために、学習情報の収集・発信の仕組みづくり、学習相談体制の整備、交流の機会づくり、コーディネートに取り組みます。

(3)つなげる～個の学びから社会的な学習活動への転換

【主な成果】

- ・学習活動の組織化・社会化支援として、地域文化創造館が中心となって「エリアガイドボランティア養成講座」を実施し、区内で4団体がガイド活動しています。「としま案内人雑司ヶ谷」では、平成30年度47組1,116名の方にガイド活動を行い、地域を担う人づくりができてきていることがわかります。
- ・受講生同士の学び合いを活かした地域づくりや地域課題の解決を目指すとしまコミュニティ大学では「マナビト生」制度を導入し、累計登録数は1,315人。としまコミュニティ大学の学習プログラムの企画運営も担っており、質の高い学びと活動の循環が行われています。

【課題と方向性】

区民自身が、社会的課題を見つけ、学びをとおしてその解決を図っていくことは今後も重要な課題となります。「個の学び」を尊重しながら、学びあう仲間を見つけ、小さなコミュニティを数多く組織することでよりよい社会につながるような働きかけを引き続き行っていきます。

(4)つくりだす～学習活動のネットワーク化の促進

【主な成果】

- ・多様な活動間の連携・協働として、指導者・学習者・学習支援者・施設運営者が一堂に集い、学びをふりかえる「学習ネットワーク交流会」等の研修事業を平成28年度から実施し、学びを軸としたネットワークづくりが広がっています。
- ・郷土資料館等や図書館で、地域資源を活用した学習活動が行われています。また、雑司が谷案内処などでの文化活動やまちづくり活動は、地域の活性化へとつながっています。
- ・学びの経過と成果をまとめた「としま学びスタイル発見カタログ」を発行し、学びの資源を見える化し、発信することで、より幅広い層が生涯学習に促し、学びによって豊島区ならではの文化醸成の一助につなげてきました。

【課題と方向性】

連携・協働をするために、コーディネート能力のある多様な人材の参加が重要です。

学びを活動へとつなげ、学びを生かして豊かなまちをつくるために、学習活動ネットワークの組織化・社会化の支援、多様な活動間の連携・協働を推進します。

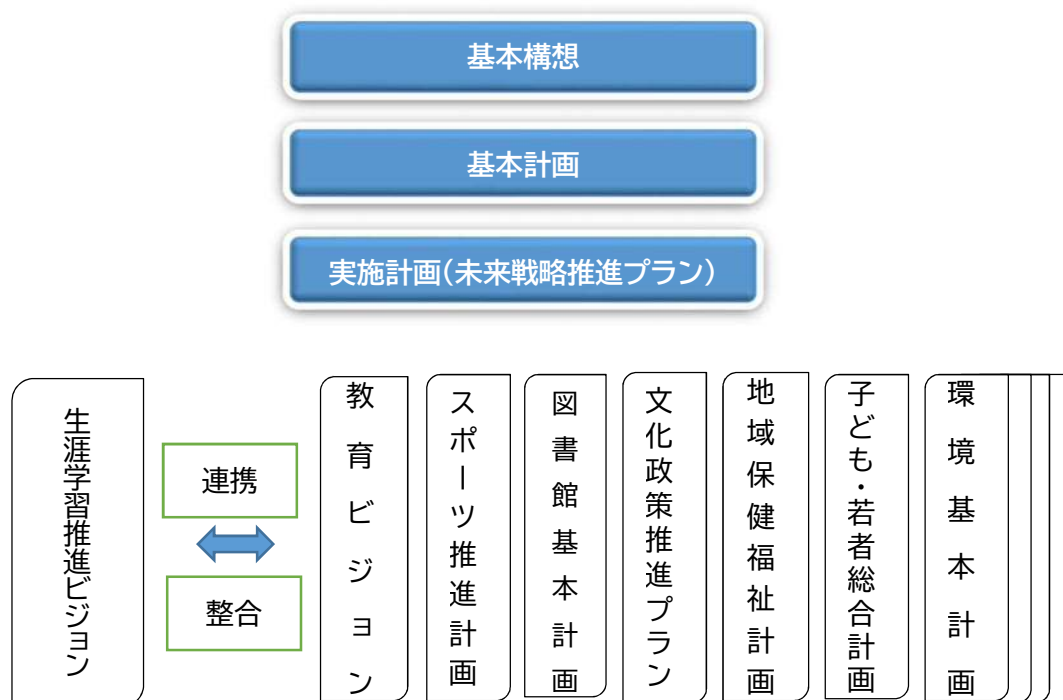
改定に当たって、前計画の「つどう」「つながる」「つなげる」「つくりだす」の4つの基本理念を、人と人、人と情報、人と活動が主体的につながるように、本ビジョンでは「つどう」「つながる」「つくりだす」の3つの方針としました。

このように、「豊島区生涯学習推進計画」の目標であった「区民が主体の学びの循環(わ)をつくる」ことについては、これまでの取組から、生き生きと学びの活動に参加し、学びの成果を生かしながら次の活動へとひろげていく姿があり、おおむね達成されていると考えますが、引き続きその理念を引き継ぎ、さらに学びと活動の好循環を生み出せるよう働きかけていきます。

1-3 ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、生涯学習分野における取組を推進するための基本的な考え方や方向性を示すものです。

「豊島区基本計画 2016-2025」「豊島区未来戦略推進プラン」をはじめ、関係する個別計画と整合を図ります。



* 生涯学習は、学校教育やスポーツ、図書館などで行われるあらゆる学びの活動ですが、個別計画があるものについては、それぞれの計画で定めます。

* 生涯学習は、乳幼児から高齢者まですべての年齢層を対象にするものですが、人生100年時代を迎える中で、より豊かな高齢期を迎えるための準備期間として、青年期、成人期を重点ターゲットとして位置づけます。

1-4 ビジョンの期間

生涯学習を取り巻く環境変化に的確に対応するため、2020(令和2)年度から2024(令和6)年度までの5年間でビジョンの期間とし、2025(令和7)年度に見直すこととします。

第2章 生涯学習の推進に向けて

2-1 生涯学習推進の目標

目標 学びの循環をひろげる「としま学びスタイル」の実現

前期計画で達成した学びの成果を活かし、学びと活動との循環をさらに広げていく取り組みを推進していくために「学びの循環をひろげる『としま学びスタイル』の実現」を、生涯学習の推進目標と定めました。

「としま学びスタイル」とは・・・

- ・役割を固定しない活動ができる
- ・どこからでも始められ、続けることができる
- ・ライフスタイルに合わせた参画ができる
- ・発信することで、価値の再認識ができる
- ・ネットワーク広げることで、新たな価値を生み出すことができる

「としま学びスタイル」を実現するための3つの方針は、「つどう」「つながる」「つくりだす」です。これらはどれが上、どれが先というものではありません。区だけではなく区民をはじめ、様々な主体と協働しながら進めていくものです。学ぶ場や機会、人や情報をつなぐこと、学びや活動の創造、これらすべてが学びを支える施策に関わってきます。

つどう つながる つくりだす

誰でも自分のスタイルで、自由で多様な学習ができるよう、生涯学習環境や活動拠点、学習機会を整備します。個人、仲間同士、グループや組織を含め、あらゆる人々が学びと活動に参加・参画し、地域に身近な「つどう」場と機会があることで、「学ぶ、振り返る、発信する、そしてまた学ぶ」という、学びと活動の好循環が行われていきます。

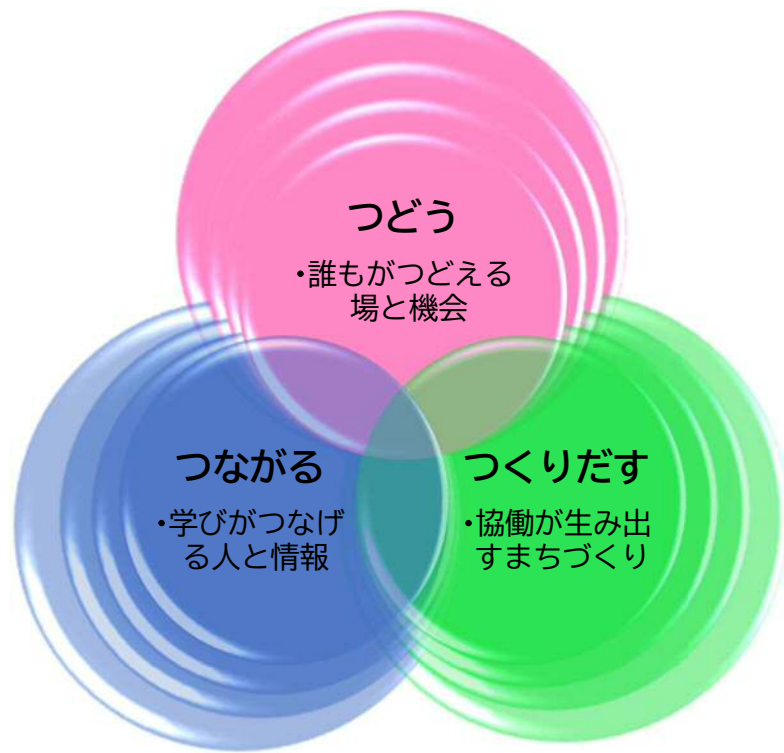
このように学びと活動は常に循環し、学んだ成果が地域社会に還元されるよう、生涯学習の推進に向けて区では各部署と連携を図っていきます。また、区内にある生涯学習を行っている関係機関、学校、企業、NPO などと協働して、学びをさらに継続・発展させていくために、学習情報の収集と発信・提供、生涯学習に関する相談、学習成果の可視化・発信といった機能強化に取り組めます。学びを通して人と情報が「つながる」ことで学びあい広がっていきます。

学びの循環を広げるために、学習活動のネットワークや組織化・社会化の支援、多様な活動間の連携・協働を推進し、持続可能な取り組みへと発展させていきます。学びの成果をいかし、学んだことが次の学びのサポートをすることで地域人材の育成を促したり、地域資源を活用したまちづくりを行うことで、新しい文化や価値を「つくりだす」ことを目指していきます。

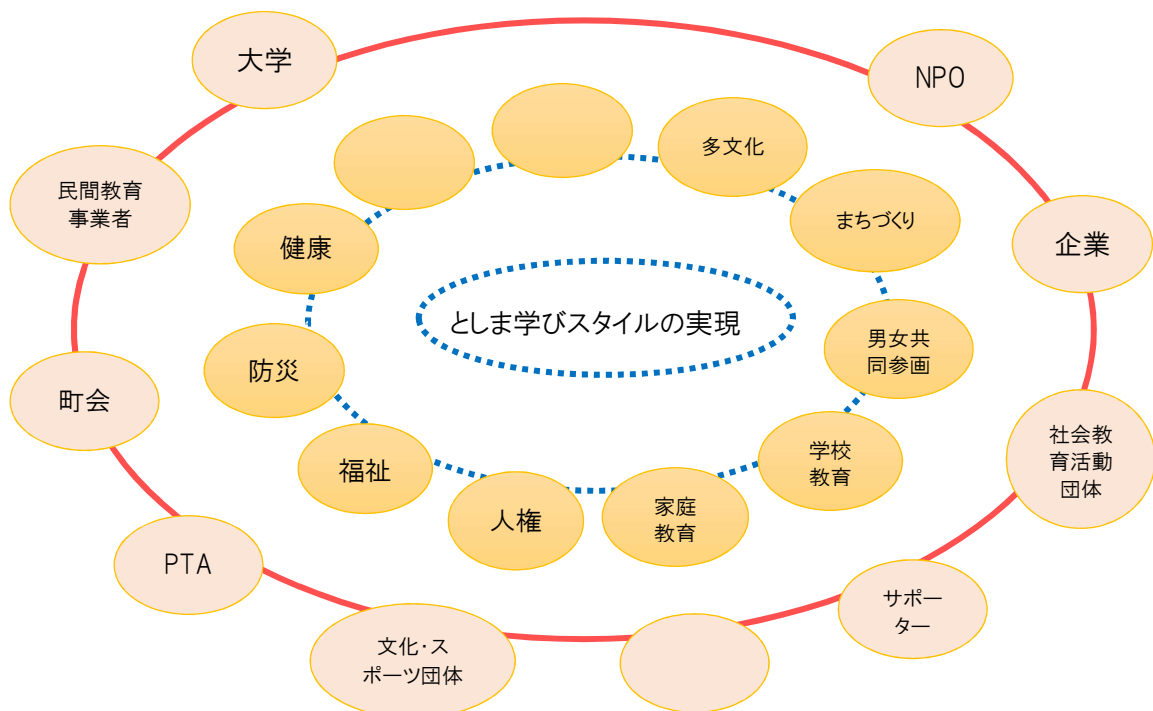
学びの循環をひろげる

改めて「学びと活動の循環」とはどのようなものでしょうか。学びにより、様々な気づきや課題の発見があります。課題を解決しようとして活動が展開されることがあります。しかし、簡単に解決する課題ばかりではありません。学ぶことにより解決策を考え、活動し、また学ぶ、という循環がより確かな解決への道筋を明らかにしていきます。

こうした循環は、一人ひとりの中だけではなく、地域での循環もあれば、世代を超えての循環もあり、また、区民や区民団体、行政、企業、NPO、等の立場を超えて、さらに教育、福祉、環境、まちづくりの等の領域をも超えてつながり合い、学びと活動の循環を生み出す可能性があります。循環が他の循環と影響しあうことで、より大きな循環を生み出す可能性もあります。多様な資源が存在する豊島区の都市型生涯学習が「としま学びスタイル」なのです。



学びの広がりのイメージ



豊島区の生涯学習の目指す姿

2-2 施策の体系図



第3章 としま学びスタイルの実現に向けて

3-1 としま学びスタイルの実現に向けて

としま学びスタイルの実現は、区だけではなく、区民や様々な主体によって目指していくものです。前述した「つどう」「つながる」「つくりだす」の方針から、特に学習・スポーツ課として、学びの循環をひろげるために次のような取り組みを行っていきます。その取り組みが重なり合い、影響しあいながら学びの力で社会をデザインし、「としま学びスタイル」を実現していきます。

□としま学びスタイルの担い手を増やす

【としま学びスタイルの担い手とは】

豊島区には、都市ならではのたくさんの学びの場があり、最先端の学びがあり、深い学びがあり、地元ならではの学びがあります。そして、誰もがある時には学びの初心者でもあり、またある時にはベテランでもあり、仲間でもあり、支援者でもあります。その時々に応じて、学ぶ内容、学び方、関わり方などをしなやかに変えながら、学びが一人ひとりと地域をゆるやかにつなげます。誰もがとしま学びスタイルの主演であり、担い手であり、創り手なのです。

【としま学びスタイルの担い手を増やしていくために】

としま学びスタイルの担い手をつくり増やしていくために、トライ＆エラーが認められる居心地の良い場や自分自身も楽しめる場をつくります。楽しい、という思いは学びの大きなモチベーションでもあり、その楽しさを仲間と共有することで、持続可能性のある活動へとつながっていきます。そして、その中で試行錯誤しながら、学び方を学び、自ら課題を発見していける調査研究へと発展したり、違いを認めあい尊重しあう力量を身につけていく「深い学びの場」を担保していきます。

【具体例】としまコミュニティ大学 マナビト生の活用

としまコミュニティ大学では、2年間登録して学ぶことのできる「マナビト生」制度を導入しています。この制度は学びを通じて、受講生同士がゆるやかにつながり、地域づくりや地域課題を継続的な学びで解決していくための制度です。多様な学習ニーズを持った人々がゼミ形式で学びあうことで、学んだ成果を地域に還元し、豊島区の魅力を発信しています。

□学んだ成果を発信する機会を増やす

学んだ成果を「見える化」していくために、外に向かって発信できる機会をつくっていきます。

【学んだ成果を発信する必要性】

経験の意義や価値を言葉にし、学びを「見える化」することで、異なる観点から取り組みの意義を吟味・共有し、学びを振り返ることができます。さらに、次の新しい学びや活動へつながる機会となります。

【学んだ成果を発信する機会を増やすために】

学んだ成果を外部へ発信すること、そして学んだことを活かして実践すること、さらに改善していくことを通して、自分や自分たちの学びを別の視点から見て、その価値を再認識し、自分や自分たちの学びがほかの人の学びへどうつながっていけるかを研究することが次へのステップへとつながっていくものと考えます。このように、学ぶ、ふりかえる、発信する、そしてまた学ぶという営みで学びを縦横に広げて

いきます。

【具体例】地域文化創造館 エリアガイドボランティアの取組

地域文化創造館では、豊島区の魅力を内外に発信するために、豊島区内に4団体ある「エリアガイドボランティア」とともに活動を行っています。地域について学んだ成果を発信することはもちろん、「オールとしま」の視点での活動を目指し、フォローアップ研修では4団体合同での研修や積極的な情報交換、近隣区で同様に活動を行う団体との交流、区内大学や高校とのタイアップなどが意欲的に行われています。区民が主体となって、区民ならではの地域ニーズをつかみながら、持続的に自立して続けられる活動の重要性が高まっています。

□ネットワークを「層」として広げる

【ネットワークを広げることで新たな価値の創出】

小さな楽しいコミュニティをつなげていくことでネットワークを広げていきます。色々な属性を持った人との出会いが化学反応を起こし、新しい価値を生み出します。区内では区民や区民団体、行政、企業、NPO等による個々の活動があれば、協働の活動も展開され、多様な学びと活動の循環が生まれています。しかし、ビジョンを総合的に実現していくためには、意図的に循環と循環を結び付けていく働きかけが必要です。

【ネットワークを広げることで新たな価値を生み出すために】

一歩先の学びに向けて、学びを語り聴きあうことに取り組めます。こうしたネットワークの機能は、すでに区民主体により運営実績を積み上げてきたみらい館大明が、行政とともに担ってきています。今後、みらい館大明のネットワーク機能の強化が、ビジョンの実現に欠かせません。

【具体例】学習ネットワーク交流会（みらい館大明での生涯学習センター研修事業）

年に1～2回開催する学習ネットワーク交流会では、生涯学習センター事業の一環として、講師（指導者）・学習者・学習支援者・施設運営者・職員が一堂に集い、学びを軸としたネットワークづくりを広げています。生涯学習という大きな枠を存分に生かし、幅広い属性の方々とマッチングすることで、自分たちの活動を振り返り、新たな価値をつくりだす学びにつなげています。

これらの取り組みは、それぞれでも行っていますが、少しずつ重なり合いながら、包括的に進めていくことが大切です。これにより、お互いの活動を刺激しあいながら相乗的・効果的に進め、学びの循環を広げ高めていくことができます。

3-2 評価体制

ビジョンの達成状況の把握については、今後の生涯学習推進協議会において点検と評価方法を検討します。

2025（令和7）年度に、それまでの達成状況を点検及び評価し、その結果を踏まえて次期計画を反映させていきます。

コラム としまコミュニティ大学マナビト研究生による生涯学習の調査・研究・発表

豊島区では、区内7大学と連携・協働し、「としまコミュニティ大学」(以下、コミ大)を開催しています。

コミ大での学びをスタートに、ゼミでの活動で学び合いを深め、その後も「マナビト研究生」という、100人を超える人々が、学び合いを継続しています。

マナビト研究生は、平成30年度にゼミ形式で「生涯学習センター研究のための学びと実践」をテーマに学習活動を実践しました。区内の生涯学習施設を自ら調べ、聞き取り調査をした内容を生涯学習推進協議会においてプレゼンテーションしました。その際、報告だけにとどまらず、課題分析や提言など、これまでゼミ形式で学んできた学習の成果が発揮されていました。

「としま学びスタイル」を実現していくためには、マナビト研究生のような、主体的に学び合いを継続していく人々の存在がとても大切です。

実際、マナビト研究生を対象としたアンケートによると、何らかの地域活動に参加している割合は64%であり、区民を対象とした調査での37%という回答と比較し、参加率が高くなっています。課題が複雑化している現代を生きるためには、学びあうことで得た力を活かしながら、より確かな選択をしていくことが求められています。

個人の生活も豊島区というまち自体の在り様も、学び合うことでより豊かにしていくことができるのではないのでしょうか。マナビト研究生の皆さんが育んできた力が、より多くの区民の学び合いを支えていくことにつながる仕組みづくりが、求められています。

